

ともしえ

No. 64

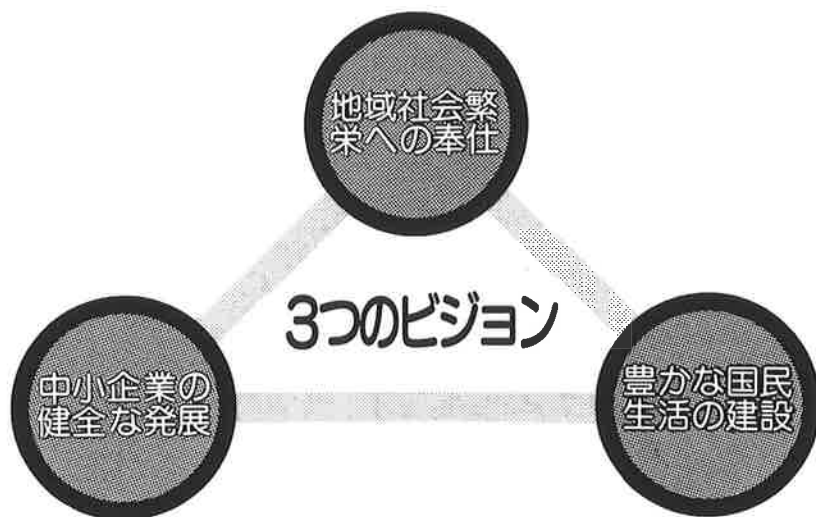
本所創立90周年記念号



■函館商工会議所報■

1986 5月号

繁栄の
進路をひらく
商工会議所



はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111(代)
弁天町支店	函館市弁天町15番6号	TEL26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521(代)			

●ともし・64号目次●

視 点	1
会議所の動き	2
地域の景気	8
調査レポート	10
アドバイスコーナー	14
寄稿文	16
Q & A	18
情報コーナー	20
新入会員紹介	21
ティータム	22
ご案内	24



● 視 点

一年の中で最も快適なそして自然の息吹きを感じさせられる季節を迎えました。春から初夏へと自然も人も衣替えを完了し、生きる喜びを胸一杯に受け、それぞれ仕事を進めている毎日だと思います。

日本経済も昨年から円高という大きな試練に耐えつつ、一ドル百六十円台という急激な変化を乗り越えてきましたが、五百億ドルを越す貿易収支の黒字のこともあり、輸出市場の制約と共に、国内市場の強力な自由化が要求されることも、一面では止むを得ないものがあるかもしれません。とにかく五百億ドルの黒字だということは、どこかの国が五百億ドルの赤字を背負っていることですから、逆の立場に立って見るとこれは大変なことだということが、よく解ると思います。

輸入原価が四〇%も安くなっているにもかかわらず、小売店に並べられている輸入商品の価格は一向に変わっておりません。この原因はあまりにも複雑な流通過程とその一段毎にあるマージンが、原価に比して大きすぎることにあっては、ないでしょうか。

世界に通用する市場として成熟するためにも、このあたりをもう一度よく考え、改善すべき点は早く改善すべきだと思います。

世界の市場は日本の市場であり、また日本の市場は世界の市場でもあるという認識を持ちたいものです。

会 議 所 の 動 き



本所創立九十周年

記念式典・同会員懇親大会

会場埋める千人の集い

市 民 会 館

本所創立九十周年記念式典・同
会員懇親大会は五月十四日午後一

時三十分から函館市民会館大ホー
ルで開催しました。

会場には主賓の五島日本商工
議所会頭（代理）、今井北海道商
工会議所連合会会頭、北川札幌通
商産業局長（代理）、横路北海道
知事（代理）、四ツ柳北海道経済
連合会会長（代理）、木戸浦函館
市長ほか数十人をはじめ、本所議
員、会員をあわせておよそ千人が
出席しました。

開会のことば（村瀬副会頭）、
国歌斉唱、物故者に対する黙禱、
来賓ご紹介につづいて川田会頭が
式辞を述べました。

創業九十年以上の会員、五十四
事業所表彰が行われ、代表として
有限会社桜庭紙店に川田会頭から
表彰状を贈りました。

創立九十周年記念特別決議は下
郡山副会頭から提案説明があり、
経済界の熱意を結集し、青函博

を成功させよう、北海道新幹
線は現函館駅にを参加者全員が
決議しました。

つづいて、日商会頭、道商連会
頭、札幌通産局長、北海道知事、
函館市長らが順次祝辞を述べまし
た。

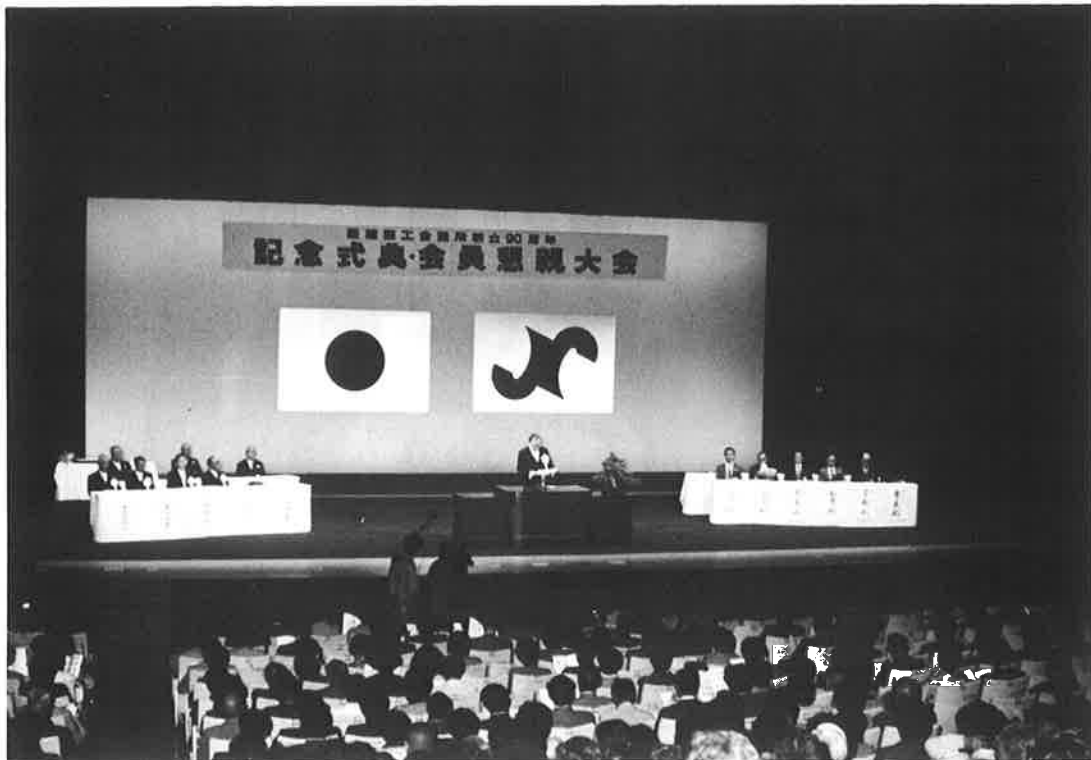
このあと当日の呼び物、作曲家
黛 敏郎氏の記念講演があり、
日本の現代とそして未来」と題
して、満場の聴衆に多大の感銘を
与え、式典第一部を終えました。

第二部のアトラクションは午後
三時三十分から開幕、トップバッ
ターは、奇術のバーディ小山とマ
ジックシャドウ、つづいて歌謡漫
談の佐々木つとむ、最後にコロン
ビアトップ・ライトの漫才があり
和気あいあいのうちに午後四時三
十分、全プログラムを終了しまし
た。

なお、最後にお楽しみ福引きの
当選番号発表があり、スクータ
ー、カメラなど豪華賞品（約百二
十点）が当り会場は大きな歓声が
上っております。

式辞を述べる本所川田会頭





記念講演をする黛敏郎氏



創立90周年記念特別表彰 南桜庭紙店 高松一平



会員懇親大会に参加した会員の皆さん



元前会頭による万歳三唱



日本商工会議所 守屋常務理事、北海道商工会議所連合会 今井会頭、本所 川田会頭による鏡開き



●奇術
パーティ小山と
マジックシャドウ

●歌謡漫談
佐々木つとむ



●漫才
コロンビアトッ
ライト



“お楽しみプレゼント”、賞品の引換をする当選者



祝賀会で懇談する議員、来賓

函館商工会議所のあゆみ

明治21年

函館商工会は富岡町の函館町会所に事務所を開設。

29年

平出喜三郎会頭に就任、富岡町に在る函館町会所に事務所を開き5月定款の認可を得て8月16日開所式

40年

本市に稀有の大火災(12,300戸焼失)あり、本所類焼し区役所に事務所を移転。

43年

函館区公会堂落成、本所の事務所を之に移転。

大正2年

第1回物産品展覧会を開催。

12年

本市小能幸一郎氏よりの寄付により現所屋完成、6月4日落成式を挙行、事務所移転。(現在の大手町本所別館)

14年

青函連絡船の貨車航送開始記念のため共進会を開催上海に海産物貿易調査所を開設。

15年

昭和元年

本所創立30周年記念式を万世ホテル(現在日本冷蔵函館支社)に於て挙行。

称名寺に於て高田屋嘉兵衛百年祭法要を施行。

3年

商工会議所法により函館商工会議所と改称。

5年

国産愛用展覧会を開催。

7年

南洋巡回見本市船(道庁)、函館特産品を広く海外に宣伝するため議員谷徳太郎、同山口楽平を派遣。放送文化展覧会を開催。

8年

輸出品の包装展覧会開催。

10年

大火災の復興促進のため、本所議員谷徳太郎の提唱による函館みなと祭を7月1日から1週間開催。

11年

災害後の実態把握のため、全市商業調査を開始対象4,970店。

今上陛下函館に御巡幸、本所特別編纂による函館産業大観を献上。

12年

第1回函館珠算競技大会を開催、爾後毎年之を開催新川小学校に満洲事情展覧会を開催。

14年

奥羽、北海道商工会議所連合会を本所に於て開催。

15年

戦時産業貿易展示会を開催。

金3万円を以て市内湯の川鈴蘭丘に山林27町歩を購入。

16年

南方共栄圏展覧会を開催。

第1回珠算能力検定試験を実施。

17年

大東亜経済建設展覧会を開催。

潘蓮夫氏を初め在函華僑の依頼もあり、函館中華会館の敷地弘下方要請、大蔵省より許可を得本所の所となす。

18年

本商工会議所の解散式を挙行。

北海道商工会経済会(札幌)函館支部となる。

21年

商工経済会法が廃止、北海道商工経済会函館支部廃止。

函館商工会議所設立。

25年

函館青年会議所を創設(全国4番目)

28年

新商工会議所法10月1日より実施。

国民金融公庫函館支所開設。

29年

北洋漁業再開記念北海道大博覧会を開催。

31年

高田屋嘉兵衛130周年顕彰碑除幕式を施行。

60周年記念式典祝賀会を挙行。

本商工会議所60年史を出版。

33年

本所所屋増改築落成式を挙行。

34年

第1回優良商工従業員表彰式を実施。

36年

第1回函館総合卸見本市を開催。

37年

道南商工会議所(森、伊達、室蘭、苫小牧、浦河、函館の6商工会議所加盟)協議会を結成。

39年

「函館経済史」を出版。

42年

函館産業会館(駅前拓銀ビル6階)落成。

本所創立70周年記念式典を挙行。

43年

函館簿記学校(本所経営)を大手町本所別館内に開設第18回全道商工会議所大会を当市で開催。

44年

本所婦人会設立総会。

45年

函館空港ビル(株)設立総会
欧州経済事情を視察(団長田中会頭)。

47年

「函館地域商業近代化計画報告書」完成。

商工会議所共済制度発足。

小規模企業振興委員制度発足。

48年

小企業等経営改善資金融資制度全国一斉に発足。

12月亀田市、函館市と合併。

49年

「ペリー箱館来航誌」を刊行。

51年

「函館地域商業近代化実施計画報告書」完成。

本所創立80周年記念式典開催。

53年

中小企業倒産防止共済制度発足。

函館市、特定不況地域に指定。(11月20日)

函館空港2,500メートル滑走路完成供用開始。

55年

第9回青函圏経済文化振興協議会で本所から津軽海峡博覧会を提案。

56年

本市において第31回全道商工会議所大会開催。

58年

函館市に対し津軽海峡博覧会開催について陳情。

第4回臨時議員総会で津軽海峡博覧会開催推進を決議。

59年

函館圏の1市3町が「テクノポリス函館」地域に指定。

60年

日本商工会議所主催による訪中国経済視察団に本所川田会頭参加。

カナダ・ハリファックス市親善訪問。

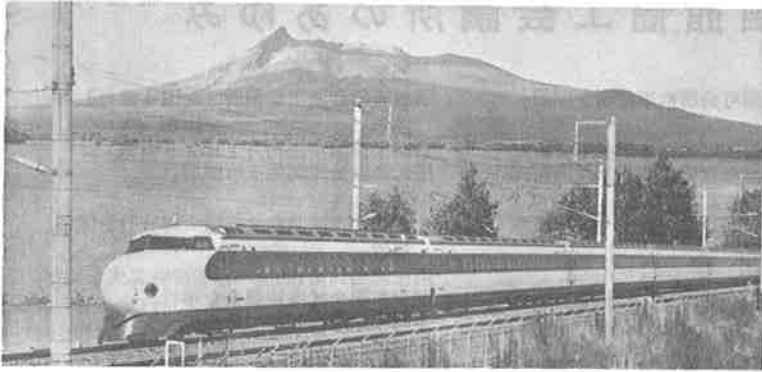
新幹線の現駅乗り入れを陳情

北海道知事、国鉄北海道総局長などに

去る五月二日、本所川田会頭、加藤副会頭、高野副会頭は、北海道知事、日本国有鉄道北海道総局長、日本鉄道建設公団札幌支社長、北海道商工会議所連合会会長、北海道経済連合会長並びに北海道経済連合会長などに、北海道新幹線函館駅の現函館駅への設置とリニアモーターカーの現函館駅からの早期建設促進について陳情しました。

この件については、本所に函館市商店街振興組合連合会、函館青年会議所、函館朝市連合会並びに函館観光協会の四団体から陳情があり、本所の運輸港湾部会、地域開発委員会の合同会議で経済、交通、文化などあらゆる角度から検討した結果であり、また、三月二十六日開催の通常議員総会で議決された案件です。

本所は引き続き関係諸機関に陳情活動を推進してまいります。



駒ヶ岳を背に走る新幹線予想図

「さしみ昆布」に会頭賞

農水産品 菓子 など十九品に改善指摘

本所では毎年道南地区の優秀なお土産品を推奨しておりますが、六十一年度の受賞商品が次の通り決定しました。

なお、十九品目について条件付合格・保留があり、今後指導していくことになっております。



観光土産品審査シーン

昭和61年度（第31回）函館優良土産品推奨会受賞商品

賞 名	商 品 名 (価格等)	製 造・販 売 元
函 館 市 長 賞	手作りジャム詰め合わせ (3品 ¥2,500)	(株) 第一食品
函館商工会議所会頭賞	さしみに昆布 (5枚入 ¥1,000)	(株) 不二屋本店
みなみ北海道地区観光土産品公正取引協議会会長賞	ほこだてわいん元町(ロゼ) (720ml ¥1,100)	(株) ほこだてわいん
奨 励 賞	浜ものがたり(海産珍味) (5品入 ¥3,000)	(株) 味の海豊
奨 励 賞	粒うに入りいか白造り (300g ¥1,000)	(株) 渡辺商店
奨 励 賞	はたて蒸製 (200g ¥1,500)	(株) 渡辺商店

優良土産品
審査会・推奨会

大型間接税 対 北海道総決起大会

札幌市・厚生年金会館で開催

大型間接税導入に対しては、すでに小売業界をはじめ、流通関係十一団体が反対を表明しているところですが、この運動を地方から盛り上げるため、〃暮らしを圧迫する大型間接税に反対しよう〃をスローガンに大型間接税に反対する北海道総決起大会が去る四月二十八日、札幌市・道厚生年金会館で開催されました。

これは大型間接税反対北海道連絡会議の主催のもと、六十四団体約二千人の商工業者が参加し、物価を高騰させ重税国家の現出は火を見るより明らかである大型間接税の導入には断固反対、これを完全に阻止するまで徹底的に戦い抜くという大会宣言を採択するなど熱気あふれる大会となり、大変盛り上がりを見せました。

引き続きデモ行進に移り、厚生年金会館前から北大通を經由し、

テレビ塔に向かって行進、駅前通りを左折、日本航空前までの中心街約一・二キロを「大型間接税絶対反対」のシュプレヒコールを繰り返し街行く市民に強くアピールしました。

今後の運動のすずめ方については、札幌市をはじめ全国十一の拠点都市において総決起大会を開催し、これら拠点における大会の総括として、五月二十日に東京の日比谷公会堂において、中央総決起大会を開催することになっていきます。

大型間接税については既刊の本所所報「ともえ」の三月号・四月号に特集・大型間接税を考える——その背景——に詳細が掲載されておりますのでご覧下さい。

去る四月二十七日、第四十回国民珠算競技大会道南地区予選が函館並びに苫小牧の二会場で同時開催されました。

これは五月二十五日、水戸市で開かれる中央大会への地区代表選手を選出するために行われたもので、両会場合わせて五十四人の選手が競技委員の合図のもと、いっせいに競技に入りました。

乗算、除算、見取暗算、乗暗

渡辺英男さん (中属) 道南二位に

40回国民珠算道南地区予選開催

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 算、除暗算、見取算、伝票算の各種目で熱戦が展開され、競技の結果、「そろばん道南一」の座には、村瀬智幸登さん(駒沢短大)が二年連続の荣誉に輝き、日本商工会議所会頭杯、賞状並びに副賞が授与されました。 | ◎国民大会道南地区予選入賞者 |
| 一位 村瀬智幸登 | (苫小牧・和光中) |
| 二位 渡辺英男(函館・附属中) | 三位 小野慶子(函館・遺愛高) |
| 〃 城生野薫 | 〃 日沼祐子(函館・戸倉中) |
| | 〃 内山直美(函館・函商高) |
| | また、同日は第十八回全国小学生珠算競技大会も同時に開催され、二会場で百八人が参加する中で、城生野由美さん(苫小牧緑小)が昨年に引き続き二年連続の荣誉に輝きました。 |
| | ◎小学生大会入賞者 |
| | (函館会場分) |
| | 二位 吉田 徹(東 小) |
| | 〃 高橋大輔(鷺木小) |
| | 〃 石井智昌(藤城小) |
| | 三位 二ツ森優子(駒場小) |
| | 〃 成田美樹(茂辺地小) |
| | 〃 安藤 智(東 小) |
| | 〃 綿谷美咲(附属小) |
| | 〃 小杉佳代子(柏野小) |
| | 〃 齋藤真由(北美原小) |
| | 〃 優良賞 |
| | 〃 惣坊保子(駒場小) |
| | 〃 高橋 愛(鷺木小) |
| | 〃 福田知浩(浜分小) |

較的順調ながら、北洋漁業規制強化等の影響を受けて流し網、底引網の受注が落ち込んできていることから、生産を抑制。

(その他の製造業)

合板は、流入増をみている安値インドネシア産合板と競合しない高級合板の拡販実績が徐々に上がっているほか、原コストの低下等を映じて採算も好転してきているため、操業度を幾分引き上げ。またセメント、生コンは、公共工事前倒し発注方針等を映じて荷動き・生産水準とも漸次上向き。

(建設関連)

管内主要官公庁の新年度公共工事発注状況は、政府の前倒し発注方針を受けて順調な出足をみせており、地元建設・土木筋では、例年比幾分早目の着業をみている模様。

(漁業)

最盛期入りの近海マス漁は、海水温の影響もあって魚群の来遊が引き続き薄く、目下のところ不漁模様。

(小売商況)

3月中の市内大型小売店(10か店)の売り上げは、家具等家庭用品、雑貨などの動きが低調であったものの、早目に春めいたことや催事の奏功もあつて、婦人春物衣料、身回り品、新入学用品等が比較的順調な動きを示したため、月中では高伸をみた前年並み水準(前年比△0.4%)となった。4月入り後も婦人・紳士衣料を中心に底固い動きを続けている模様。

自動車販売(含む軽自動車)は、乗用車の落ち込みが響き前年割れ(3月中管内自動車新車販売台数、前年比△2.6%)となったものの、家電販売はVTR、オーディオ、カラーテレビ等を中心に比較的順調な動きを続けている。

観光面では、ゴールデンウィークに向けての市内宿泊施設等の予約状況が家族連れや団体客を中心に好調な出足をみせている模様。

3. 金融事情(3月中および60年度中)

○管内金融機関の実質預金は、法人筋の期末決済資金が滞留したほか、利下げ前の駆け込み預入等に伴い個人預金も好伸したため、月中では301億円の大幅増加(前年は月末休日により法人流動性預金が大きく積み上がったため467億円の増加)。

また60年度中では、個人預金は順調な伸びをみたものの、前年度末積み上がった法人流動性預金の反動落ちが大きく響き、年度間増加額は184億円と前年度(430億円)比半減。

一方貸出は、建設、卸・小売業の期末決済資金および地方公共団体の年度末つなぎ資金を中心に、月中167億円の増加(前年344億円増)。

60年度中では、企業需資が盛り上がり欠いたうえ、前年度末休日による高どまり分の落ち込みもあって、年度間増加額は138億円(前年378億円)にとどまった。

この間、管内銀行の貸し出し約定平均金利は長短プライムレートの相次ぐ引き下げ等を映じて月中△0.094%と58年12月(△0.099%)以来の大幅低下を記録。

○銀行券は、国鉄退職金の支給増に加え、期末決済現金需要が嵩んだため、前年(発行超21億円)を大幅に上回る月中48億円の発行超。

60年度中では、レジャー資金流入等を映じて、118億円の還収超(前年同132億円)となった。

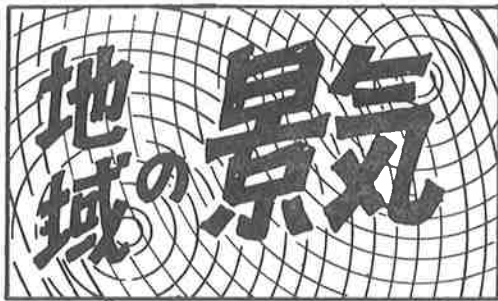
○財政収支は、運用部地方貸の回収増や保険の受け入れ増をみたものの、国鉄退職金および公共事業関係費等の支払が嵩んだため、月中96億円の大幅払超と前年(受超38億円)比様変わり。

60年度中では、国鉄や公共事業関係費等の支払増加を映じて、402億円の払超(前年同331億円)となった。

以 上

3月

昭和61年4月30日発表



日本銀行函館支店

1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、飼料・魚油が安値輸入品との競合から減産姿勢を強めているうえ、漁網、段ボールでも北洋漁業の規制強化等の影響から生産を抑制、またこれまで高操業を維持してきた造船では、厳しい受注環境を映じて操業度を幾分引き下げている。しかしながら、化学肥料、製缶機械が根強い需要を背景にフル操業体制を続行しているのをはじめ、珍味加工、乳加工品、セメント等でも盛業期に伴う需要増から操業度を漸次引き上げている。さらに電子部品では、内外実需の着実な回復を背景に増産体制を強めてきているほか、合板、合板機械でも、円高の影響を内需の掘り起こしで吸収しつつ減産緩和の方向にある。この間、個人消費面では、大型小売店の売り上げ、家電販売とも引き続き堅調裡に推移し、シーズンインの観光も順調な出足をみせている。なお、漁業では、近海マス漁が最盛期入りにもかかわらず目下のところ不漁模様。

金融面では、企業の期末決済資金や地方公共団体向けつなぎ資金需要が増加。管内銀行の貸し出し約定平均金利は長短プライムレートの相次ぐ引き下げを映じて大幅低下。

2. 主要業種別動向

(造船)

新造船部門では、厳しい受注環境下建造ペースをスローダウンさせてはいるが、4月入り後さらに親会社からの繰り

返し受注1隻が入ったため秋頃までの仕事量を確保、修繕船、陸上部門の受注も官・民間船、橋梁等を中心に比較的順調。

(電子部品)

パソコン、VTR等の末端実需持ち直しを映じて、一部ICに品薄感も出るなど需給地合いは改善歩調を辿っており、つれて市況も徐々に上昇、このため時間外操業の拡大等により増産体制に移行。

(珍味加工)

行楽需要期入りのほか、製品価格が軟化し値頃感が出ていることもあって、消費地問屋筋からの引き合いが活発化しているため、時間外操業の導入やパートの採用等により操業度を引き上げ。

(化学)

飼料・魚油では、安値輸入飼料との競合等を映じ市況が弱含んでいるうえ、先安見越しの販売先の当用買い姿勢の強まりから引き合いも低迷しているため、減産体制を持続。化学肥料は、農作業の本格化に伴い好調な荷動きを続けているほか、在庫も適正水準を割り込んでいるため、能力一杯のフル生産体制を維持。

(機械)

製缶機械は、食料品メーカーの根強い新製品開発投資意欲を背景に受注が引き続き順調なため、時間外を拡大しフル操業を継続。また合板機械では、輸出は落ち込んだままながら、国内大手合板メーカーによる高性能な合理化・省力化機種への引き合いが増加してきているため、時間外操業を徐々に拡大。

(段ボール)

春野菜等青果物向け荷動きは上向きつつあるが、水産物向け等の出荷不振から定時操業にとどめている。

(乳加工品)

市乳の売れ行きは不調を続けているものの、主力粉乳・練乳、冷菓等の需要期入りに伴い生産水準を徐々に引き上げ。

(漁網)

イカ刺網やイワン旋網の引き合いは比

製造業では、今期比D I 9.4、前年同期比D I △3.7と、前期比ではD I がプラスを示しやや好転を見込んでいる。細業種でみると漁網業と造船業は今期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示し業績悪化を予想しているが、逆に水産加工業、飲食料品業はともにD I がプラスを示し好転を見込んでいる。他の業種はほぼ横ばい状態を予想している。

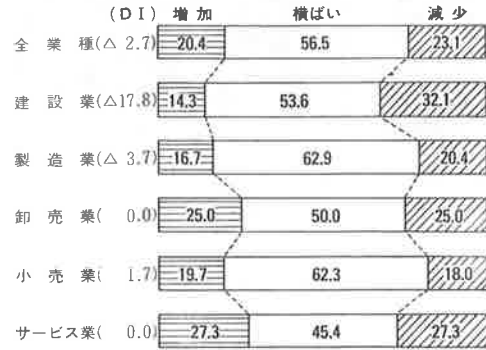
卸売業では、今期比D I 14.3、前年同期比D I 0.0と、比較的明るい予想をしている。細業種でみると、燃料業は今期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示し業績悪化を予想しているが、逆に飲食料品業、医薬品・化粧品業はともにD I がプラスを示し業績好転を見込んでいる。その他今期比では、一般機械器具業、建築材料業もD I がプラスを示している。

小売業では、今期比D I 11.7、前年同期比D I 1.7といずれもD I がプラスを示しており、業績好転を見込んでいる。細業種でも、各業種とも比較的明るい見方をしており、特に各種商品販売業、自動車販売業は今期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し、業績好転を見込んでいる。

サービス業では、今期比D I 27.3、前年同期比D I 0.0を示しており、特に今期比では増収を見込んでいる。細業種でみると、自動車整備業が業績悪化を予想している以外は好

転基調を見込んでおり、クリーニング・理美容業は今期比、前年同期比ともにD I がプラス、ホテル・旅館業も今期比ではD I がプラスを示している。

図一六 来期の売り上げ見通し (対前年同期比)



3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とする企業8.3%に対し、「悪化」とする企業13.9%でD I △5.6を示しているが、「変わらない」とする企業が77.8%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しである。

これを業種別にみると、建設業D I △17.3、製造業D I △3.8、卸売業D I △7.4、小売業D I △1.7、サービス業D I 0.0となっているが、各業種とも大半の企業が「変わらない」としている。

統計資料

函館市内第一種大規模小売店舗売上高 (10店) 昭和61年3月

品目	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	3,608,643	172.0	102.5
身体回品	625,078	175.9	100.7
雑貨	921,903	145.6	98.6
家庭用品	847,614	168.2	93.2
食料品	1,841,903	120.0	98.2
食堂・喫茶	225,787	141.6	97.4
サビス	76,286	147.3	98.2
その他	282,608	118.1	95.8
総計	8,429,822	151.2	99.6

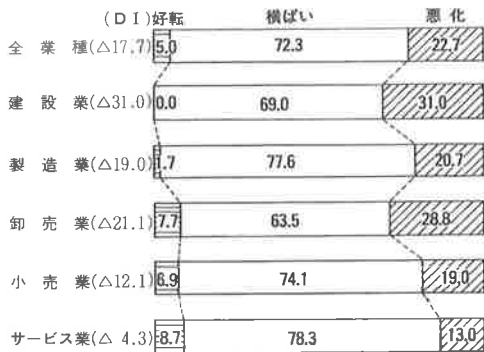
※ 10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパースプラザ湯の川店の各店をいう。

調査レポート

悪化基調に変わらないが、「変らない」とする企業が72.3%もあり、ほぼ前期並みに推移した。

業種別にみると、すべての業種でD Iがマイナスを示しているが、やはり各業種とも、「変らない」とする企業が大半を占めており前期並みに推移した。

図-4 今期の資金繰り(対前期比)



5. 経営上の問題点について

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売り上げ・受注の不振」をあげている企業が多く、全業種で47.1%を占めている。

この「売り上げ・受注の不振」を業種別にみると、建設業48.5%、製造業43.8%、卸売業49.0%、小売業55.4%、サービス業27.5%となっている。

他に経営上の問題点をみると、建設業では「工事価格の値下り」17.2%、「純利益の減少」・「同業者間の競合」・「景気の見通し難」がそれぞれ10.3%、製造業では「景気の見通し難」14.0%、「製品安」・「人件費等経費の増加」がそれぞれ10.5%、卸売業では「純利益の減少」17.5%、「販売価格の値下り」14.0%、小売業では「純利益の減少」が12.1%、「客足の減少」10.3%、サービス業では「同業者の競合」18.2%、「客足の減少」13.6%等となっている。

来期(4月~6月)の見通し

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」とみる企業

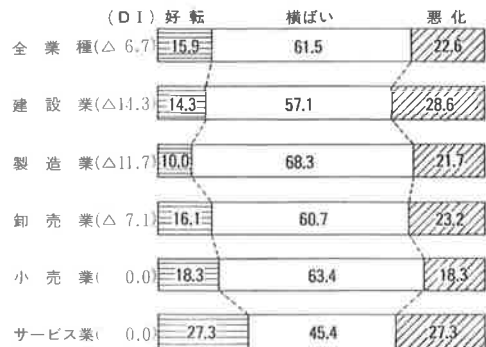
30.4%に対し、「横ばい」企業50.7%、「悪化」とみる企業18.9%でD I 11.5、また前年同期比でみると、「好転」企業15.9%に対し、「悪化」企業22.6%でD I Δ 6.7と、今期比ではD I がプラスを示し、好転基調を予想している。

業種別にみると、今期比では建設業D I 3.5、製造業D I 18.6、卸売業D I 6.9、小売業D I 6.7、サービス業D I 27.3と、いずれもD I がプラスを示しており、各業種とも比較的明るい見方をしている。

しかし前年同期比では、小売業(D I 0.0)とサービス業(D I 0.0)が横ばい状態を予想している以外は、D I がマイナスを示し悪化基調を予想している。

このように来期の業況は、盛業期入りもあり、各業種とも比較的明るい見通しとなっている。

図-5 来期の業況見通し(対前年同期比)



2. 売上額について

来期の売り上げ見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」とみる企業30.9%に対し、「横ばい」企業49.6%、「減少」とみる企業19.5%でD I は11.4とプラスを示し、また前年同期比では「増加」企業20.4%に対し、「横ばい」企業56.5%、「減少」企業23.1%でD I Δ 2.7と若干マイナスを示している。

次に来期の売り上げ見通しを業種別にみると、

建設業では、今期比D I Δ 3.4、前年同期比D I Δ 17.8といずれもD I はマイナスを示しているが、冬場を脱してマイナス幅を狭めている。

いる。

次に売上額を業種別にみると

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I △32.2、前年同期比D I △24.1といずれもD I がマイナスを示し依然として業績悪化が続いている。細業種でみても、すべてD I がマイナスを示している。

このように本格的な積雪期を迎えた建設業界は、公共事業が第3・四半期までにはほぼ発注済みとなり、季節的要因もあり業績は悪化している。

【製造業】

今期の生産額は、前期比D I △35.1、前年同期比D I △3.6といずれもD I がマイナスを示し、業績が悪化している。

細業種でみると、造船業は前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し比較的順調に推移しているが、逆に飲食料品業、窯業・土石製品業、一般機械器具業では、ともにD I がマイナスを示し業績は悪化している。他の業種は、前期比ではすべてD I がマイナスを示し業績悪化、前年同期比では横ばい状態を示している。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比D I △34.5、前年同期比D I △23.2といずれもD I がマイナスを示しており、特に前期比では過半数の企業が悪化を訴えている。

細業種でみると、医薬品・化粧品業は前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し向上しているが、逆に飲食料品業、燃料業、一般機械器具業、建築材料業は、いずれもD I がマイナスを示し、業績は悪化している。

【小売業】

今期の売上額は、前期比D I △10.1、前年同期比D I △12.3といずれもD I がマイナスを示している。

細業種でみると、自動車販売業は前期比ではD I がプラスを示し比較的業績が好転しているが、前年同期比ではマイナスとなっている。

る。また、各種商品販売業は前期比、前年同期比ともにほぼ横ばい状態を示しており、その他の業種は、いずれも悪化基調で推移している。

【サービス業】

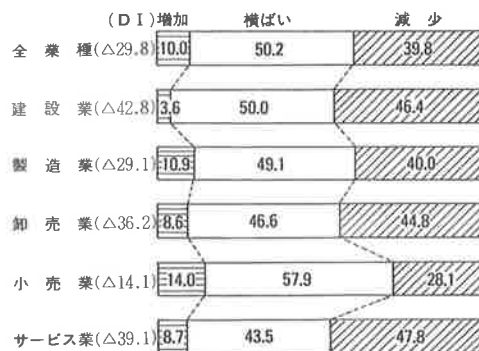
今期の売上額は、前期比ではD I 0.0と横ばい、前年同期比ではD I △13.1とマイナスを示し悪化している。

細業種でみると、クリーニング・理美容業は前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し業績好転しているが、逆に自動車整備業はともにD I がマイナスを示し、悪化基調で推移した。また、ホテル・旅館業は、ほぼ横ばいとなっている。

3. 純利益について

今期の純利益を全業種でみると、前期に比べて「増加」している企業12.4%に対して、「横ばい」企業40.0%、「減少」している企業47.6%でD I が△35.2を示しており、前年同期比でも「減少」企業39.8%が、「増加」企業10.0%を上回っており、D I △29.8となっている。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)



このように純利益は、売り上げ不振が影響して減少傾向が続いている。

業種別にみると各業種とも悪化傾向にあるなかで、小売業の各種商品販売業と自動車販売業が、やや明るさをみせている。

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種でみると、前期に比べ「好転」した企業5.0%に対し、「悪化」した企業22.7%でD I が△17.7を示しており